

潜化

027
299
1

物
忍
骨
晨
連
中

物
好
初
序



027
279
1

愛知女子専
第 1608 號
書 圖

田舎
美 書

梅の飛鳥

80/11
23/

1-10



序

海をこぎまよふ舟のやうな運命に
あつた法會に招ありしをいさぐりか
はりしをいさぐりにしをいさぐりか
は佛のまゝ名々に普く極むのこゝろ
をいさぐりしをいさぐりか
は佛のまゝ名々に普く極むのこゝろ

梅

新をあらま生前の言成り 他は
深おしく懐く物しく味不確く若と
しる作命と云わくしるし

丁
卯 仲長

黙然房

花主



古く

而くけしうはれ澄み 柳花月

文先

若やむししくくの板折

花主

燈の光をうらむるは 同くらにふもく

花主

吾にふくくは 澄み 花のぬく

菊里

雨のさくは 澄み 花のぬく

梅兄

雪もわか 古くは 澄み 花のぬく

花主

ウ

鳥

鳥守のしるしをぬきおのり候

鳥守

揚子の噂を三浦より

山桂

二機娘も機嫌もいへ人種こ

里村

ありの鈴鹿れつとて

叫凡

そよりてもうはまのむ

鶴里

歌のお伽よとて何

斜谷

信ふとておのり候

主

廊下候もよむ小使不

先

掃除候もつるもつるもつる

氣

新馬の伊れ肩よとぬ

流

音も信くもつるもつる

由

月も也、船の御所の候

兄

大信候もつるおのり候

桂

使候もつるおのり候

宇

う
皇太后右屏風の奥ゆ

凡

夕日のまはれ候

朴

育農又江鍾劇曲の族花の 田麩

心あり子宵とありて 一 子等

おいよ〜こ〜わ〜列〜お代官 梨洞

湯沼のあまのれよ〜心解と 草流

動地よも世らひあゆま〜むゆり ハニ 百齡

唐影佐のりよ 何不も信不 此柱

入聲とひふのなとひあり合 主

味峰掃く掃子ききしめよ 圃

洞釘のぬきと〜松場か〜市 一 英

よ〜お見うけて 水盤 市

冥定と〜れえ〜に〜お 一

おれ〜と〜もよ〜と〜おし 鳳

夕〜けよ月際〜る葉拵換 等

二〜と〜と〜活條の〜年拵 靴

夏〜ぬ〜人〜と〜瘰治と活全拵 漆

玄冥と〜山幕 絛〜あり 洞

三子のすまみ三千のよむむむ
せにゆやよくさるふのそ
整 柱

極上佛取不ま〜十七回らよ
あふ〜ゆ〜お誠のほはき極上人
連中よ志とさ〜して音晨の
法念を信ふせ〜り〜近れ
教恩さ〜ゆ〜とや〜其國を
他〜さ〜ゆ〜佛も
ゆ〜さ〜ゆ〜佛も
船僧のほ佛と招よ〜る〜

うらえ好
精

梅の香や春を先住に投ふる 長門 丑未坊

白梅の白ひや月もとりと氣 長門 中阿

斗の子此鼻小若く梅のむ 肥後 可考

顔もくの一重のさし梅のむ 肥後 露計

春もくや梅のむ梅の紅 肥後 乙詔

白梅もくもく梅のむ 越前 一色坊

清くもくもあさくく八重の梅 越前 浄五

梅白一人の着くもく正月と、半慈

梅の香や秋風の鼻小若く 長門

梅の香や梅の風のあさく 長門 乙春

梅の香や梅の風のあさく 伊勢 梅山

梅の香や梅の風のあさく 尾張 冬土

梅の香や梅の風のあさく 尾張 丁牧

梅の香や梅の風のあさく 尾張 百根

梅の香や梅の風のあさく 尾張 貞旭

梅の香や梅の風のあさく 尾張 菊名

梅の香のよきしや梅も咲くは長尾張

佐保姫の骨也さや梅のむ 如葉 梅鶴

梅の葉は鼻もあいてや梅のむ 鈴堂 玄味

一二輪梅のさく冬やあはれ 越中 侍光

糸梅のさくけけてや窓の梅 佐渡 花隈

さくさく他郷も白し梅のむ 出羽 風州

梅の香やあはれ風あもめで 北 雨

さくさく井のさよふの梅家や梅のむ 片石

ふい梅よきも赤もや梅のむ 家上 杜若

下板のさく梅のけて梅のむ 奥州 赤坂

里の山もさく梅のけや梅のむ 朔梅

さく梅のむさく梅のむ 洛 杜若

梅のむさく梅のむ 百川

梅のむさく梅のむ 大和 松園

梅のむさく梅のむ 東武 柳若

梅のむさく梅のむ 成後館也 其調

山里や中へ垣 窮了 梅のむ 北河

梅やまの 梅もゆめ 野紅

ふも少門とふ 梅のむ 南嘉

ふもふぬ 梅のむ 百五

明星の 梅のむ 百五

ふも梅とふ 去留

梅のむ 梅

梅のむ 二考

雪ハ 梅の星月 吉田 東守

月ハ 梅のむ 百疑

梅のむ 之孫

梅のむ 芳竹

梅のむ 菊文

梅のむ 山泉

梅のむ 石

梅のむ 江

花の名に赤梅や梅を渡ふ

浪客

右之

梅のこころは梅のこころに梅のこころに

村上

知来

梅のこころは梅のこころに梅のこころに

黒子

志風

梅のこころは梅のこころに梅のこころに

一東

梅のこころは梅のこころに梅のこころに

黒川

花劔

梅のこころは梅のこころに梅のこころに

藤也

梅のこころは梅のこころに梅のこころに

花仙

机右

白の梅は梅のこころに梅のこころに

此柱

梅のこころは梅のこころに梅のこころに

平風

梅のこころは梅のこころに梅のこころに

葉園

梅のこころは梅のこころに梅のこころに

山市

梅のこころは梅のこころに梅のこころに

梨田

梅のこころは梅のこころに梅のこころに

梅屋

梅のこころは梅のこころに梅のこころに

鳥守

梅のこころは梅のこころに梅のこころに

田親

身もそのおほほほほ梅のむ
 山桂
 似くもあはれ梅のむ
 荷由
 川のあはれ星や雄梅のむ
 子芋
 歎も梅や遠あもあのお
 斜谷
 梅もそのまゝ梅あはれ梅のむ
 文許
 梅もそのまゝ梅のむ
 三層星
 梅もそのまゝ梅のむ
 星朴

身もそのまゝ梅のむ
 いふ一
 牛部んつ梅のむ
 呼風
 乙日月や眉毛よ白梅のむ
 乙英
 梅のむ
 乙鷄星
 梅のむ
 梅又
 梅のむ
 梅藤
 梅のむ
 梅先
 梅のむ
 梅主

拈香

竹園主

此の薫りを遠くも向の
きりきりせしむるに
いふこの相もくわりの
木のあつりに香ハ煙も

煎茶

前草流

扱はるるに清風
吹くも
あつても

あふらぐは
一錠のまに影うけ

言膳

黙然主

むしきくの佛
くさくさ
はるる白味の
梅一色の膳

